



キャリアアドバイザーに聞いた!

# 転職サクセス へ田道

ROAD TO "TENSYOKU SUCCESS"

vol.26

会社のホームページや求人広告にプラスして知りたい、よりディープな職場環境や仕事中の雰囲気…。  
入社後に「思っていたのと違う！」とならないためにも  
どのようにすれば十分な情報を集められるのでしょうか。

ネットの口コミや  
SNSからの情報は  
得にくくなる傾向に。

会社のリアルな情報を知りたい  
と思った時、転職情報サイトなど  
に書かれた元社員による口コミを  
参考にする方が多いようです。会  
社名から社員・元社員のSNS  
を見つけられれば、それも参考に  
なるかもしれません。とはいえ、  
近年ではコンプライアンスの徹底  
がなされ、以前は知りえたことも  
今では読み取りにくくなっている  
という状況もあるようです。

定量と定性、  
両方の視点から  
情報を集めることが大切。

ビジネススクール東京・札幌の上席講師として年200回以上の授業に登壇。公共団体や企業への研修の提供や、企業、経営者、起業家へのコンサルティングや講演など、活動は多岐にわたる。脳科学理論をベースとしたコーチングでは、北海道における第一人者。株式会社ヒト・ラボ 代表取締役。

会社の情報には、数字で測れる「定量的情報」と、数字では表せない「質」を示す「定性的情報」の両方があります。それぞれをバランスよく見ることで、よりリアルな情報に近づけるはずです。

# 会社情報のより深い集め方とは？

定量的情報については、会社概要の創業年、従業員数などが参考になるでしょう。一概にはいえますが、歴史ある会社なら安定性、新しい会社なら革新的な社風が期待できるかもしれません。

ホームページがあれば、トップページだけでなく隅々までチェックするのが鉄則。「リンク集」などからも「こんな関連会社や取引先があるのか」といった意外な情報が得られることがあります。

開催があれば積極的に参加してみるなどの方法も。面接の場も、求職者がその会社の様子を観察できる貴重な機会だということを忘れないようにしてくださいね。

ただ、いくら観察しても実情は、入ってみなければわからないもの。どんな環境からでも、そこから何を学ぶかが重要ですよ。

訪問可能な職場は  
実際に訪問  
面接も職場観察の貴重な機会。

定量的な情報を得るのはなかなか難しいのですが、例えば飲食店など「お客様」として訪れることができる業界なら、まずは実際に訪れてみるのがよいと思います。製造業などモノづくりの会社でも、社内に直売所を設ける場合があるのでチェックしてみましょう。さらに、セミナー等の